

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2009
課題番号：19520224
研究課題名（和文）イメージとしての「依存」—関係性の病に関するレトリックの研究—
研究課題名（英文）Image of Dependency: Study of Rhetoric concerning the Pathology of Relationships

研究代表者
堀 恵子（HORI KEIKO）
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：50157046

研究成果の概要(和文):堀恵子は先駆的フェミニストの恋愛依存を斬新な切り口で明らかにし、人気のテレビシリーズに見るニューヨークの女性たちの様々な依存についても研究した。森岡裕一は禁酒小説を中心に、アルコール依存に特化して依存と文学の関わりを考察し、19世紀アメリカ文化史の新たな側面を明らかにした。さらに森岡と堀は共編で、依存と英米文学の相関関係を広く考察する論文集を出版した。田口哲也は薬物依存を形成する社会構造に関する質的調査を行い、現代社会が不可避免的に遭遇する薬物依存の原理を理論化した。

研究成果の概要(英文): HORI Keiko has researched a pioneering feminist's codependency using an innovative approach. She has also studied various forms of dependency in New York women, observed in a popular TV drama series. MORIOKA Yuichi has analyzed dependency in literature with an emphasis on temperance narratives, revealing a new aspect of 19th century American cultural history. Furthermore, MORIOKA and HORI co-edited and published a collection of academic papers on the correlation between dependency and British and American literature. TAGUCHI Tetsuya has carried out qualitative research on social structures that form the basis of drug dependence. Moreover, he has proposed a comprehensive theory explaining the inevitability of dependency in present-day society.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：依存・英米文学・英米文化

1. 研究開始当初の背景

本研究の参加者の大半は『イメージとしての

都市』(南雲堂)刊行に至る共同研究のメンバーであり、その経験を継承しつつ、一部メンバーの入れ替えをして活性化を図り、新しい学問動向を摂取しつつ、さらに研究を発展させることを意図している。前回の共同研究においては、必ずしも意識的ではなかったかもしれないが、きわめて都市的な問題の傾向の強い「依存」に関して、都市の諸問題を論じる中で各人が「依存」に関わる問題点と取り組んでいたと言える。前回は気楽な討議主体の研究スタイルをとり、あえて科研申請を行わず成果についてのみ補助金申請をしたが、各方面から反応があり、責任の大きさを痛感した。そのため、今回は研究そのものについても補助金申請を行い、公的なレベルで研究推進を行い、前回以上の成果を世に問いたいと願っている。したがって、メンバーの大半は本研究に関して相当程度準備態勢が整っていると言うことができ、すでにメーリングリストを通じて頻繁に情報交換を行っている。

2. 研究の目的

依存を広くとらえれば人間関係そのものが依存関係で成り立っているが、たとえば、親子の依存関係は「成熟と喪失」の主題につながり、開眼(イニシエーション)の主題と絡む。あるいは、依存には支配と被支配の関係に読み替えられる面もあり、主人と奴隷の弁証法的関係、サド・マゾ主義の話題とも接続する。むろん、アルコール、薬物依存から、ギャンブル依存等の行為に関する依存、また、性依存やいわゆる共依存など人間関係に関するものなど「依存」を巡る問題は多岐にわたっている。くわえて、人間関係をこえた事物、場所、機械へのフェティッシュな依存を考えると、いわゆる「土地の霊」のトポスを再考する切り口にもなり、テクノロジーと人間の関わりなど新時代のテーマも扱える。さらに、もっと観念的なレベルでは、モダニスト的時間へのオブセッションもある種の依存ではあるだろう。

本研究では、そういった現象の根底にある「依存」の本質とは何かを、文学・映像テキストのレトリック、イメージ分析を通して説明することを目的とする。その際、性依存、共依存、拒食/過食などの摂食異常、ストーカー行為などは都市生活において顕著に表れる現象であることに着目し、都市文明先進国アメリカに焦点を当てつつ、「依存」とは何かと言う問題提起をするとともに、新しい視点からアメリカ文学/文化の分析を行いたい。

3. 研究の方法

英米など現地でのフィールドワークで得たデータ及び関連文献の分析を行うことが

基本である。メンバー各自の具体的な方法論を要約すると、堀恵子はUCLAを主たる舞台として出張調査を行い、入手した『セックス・アンド・ザ・シティ』関係の資料を分析する一方で、ヘンリー・フューズリやギルバート・イムレイとの関係に見るメアリ・ウルストンクラフトの恋愛依存に焦点を定め、依存研究の一般理論構築を行った。扱いが難しい「性依存」の問題を大衆文化のレベルで探るユニークな方法論の開発を模索した。

森岡裕一は、入手困難な禁酒小説テキストを積極的に収集し、「共依存」の視点から禁酒小説と感傷小説という二つのジャンルにまたがる共通項を抽出した。アルコール依存の病理と、宗教・法律・社会制度・家庭のさまざまな側面からの解決の試みを文学作品を通じて分析することで、アルコール依存の問題点を浮き彫りにした。同時に(アルコール)依存を研究しつつ、19世紀アメリカ精神史の見直しにつながる切り口を発見する努力を続けた。

田口哲也は高度に発達した資本主義社会の社会経済構造、「薬物」という概念の発明、依存の長期化を可能にする表現形式という三つの角度から、依存を形成する社会構造の解析を行なった。その際、上記に共通するメディア、とりわけ高度情報化社会の典型である現代アメリカ社会のメディアと表現の問題に関して集中して調査研究を行なった。ことの性質上、活字文化のみならず、映像、口承、政治経済等無形のものが対象になるため、きわめて応用範囲の広い成果が得られた。

4. 研究成果

堀恵子は、UCLAへの出張で収集した資料をもとに、HBO版『セックス・アンド・ザ・シティ』に見られるさまざまな依存についての研究を深めるとともに、4人の主人公の一人であるミランダの恋愛関係に焦点を絞った「『セックス・アンド・ザ・シティ』に見る愛のかたち—ミランダとスティープの場合—」を英宝社出版の『英米文学の可能性—玉井暉教授退職記念論文集—』において発表し、二人の特異な恋愛関係だけでなく、HBO版『セックス・アンド・ザ・シティ』の意義、六年の長きに渡り視聴者を魅了した理由、そしてその影響力などを考察した。さらに、勤務先の大学院で『セックス・アンド・ザ・シティ』に関する講義を行うなど、本研究の成果を大いに活かしている。

また、『セックス・アンド・ザ・シティ』における依存の研究だけでなく、「ヘンリー・フューズリとの関係に見るメアリ・ウルストンクラフトの恋愛依存」において、先駆的フェミニストであるメアリ・ウルストンクラフトの恋愛依存的傾向を、ヘンリー・フューズリとの関係を示す数少ない、貴重な資料

から導き出した。

「ギルバート・イムレイとの関係に見るメアリ・ウルストクラフトの恋愛依存」においては、ウルストクラフトからイムレイに宛てた手紙をもとに、二人の関係が、伊藤明の提唱する典型的な共依存症者と回避依存症者の恋愛の九つのステップを辿っていることを明らかにした。さらに、幼い頃の家族との関係やその後の苦労に起因すると思われる彼女の共依存症が、父のイメージを持つ男性たちとの恋愛における耐え難い苦しみだけでなく、他人のために尽くすという彼女の特性を生み出し、その結果、虐げられた女性たちを救うという熱い使命感を持って書かれた『女性の権利の擁護』が生まれたと結論付けた。

森岡裕一と堀恵子が共同編集した論文集『「依存」する英米文学—阪大英文学会叢書5—』（英宝社）は、「依存」と文学の相関関係を広く考察するため、阪大英文学会叢書という場を与えられた機会をとらえ、両名が英米文学のさまざまな領域で研究を進めている気鋭の研究者らに呼びかけたものである。本共同研究からスピノフした成果と言える。その中で堀は前述の通りメアリ・ウルストクラフトの恋愛依存をギルバート・イムレイとの関係を通して考察した。森岡は、従来、加害者である酔いどれの父親と被害者としての家族という二項対立で捉えられ気味の禁酒小説にあって、親和的な家族の姿、とりわけ父親と幼ない娘の疑似近親相姦的關係を見据えることで禁酒小説分析のための新鮮な視点を得ている。その根底には現代的なタームである「共依存」のモチーフが潜在する点を指摘し、そのうえで、涙する少女のモチーフの持つ意味を考えることにより、「共依存」の視点から禁酒小説と感傷小説という二つのジャンルにまたがる共通項を抽出し、それが両者の接点として機能しうる点を抉り出す論文を執筆した。

森岡裕一は、また、アメリカにおけるフィールドワークで禁酒小説を多数収集することができ、それらの分析を継続的に行っている。禁酒小説のメッセージは常に一定のため、紋切り型の構成になりがちだが、読者を飽きさせないための工夫が見られ、物語の設定に興味深い点がいくつか発見される。また、禁酒小説の中には早くに戯曲化され、そのため今日まで命脈を保っているものもあるが、映画化されたものも含め、異なったメディアでの表象と比較することで注目すべき点も発見できた。本共同研究では、禁酒小説の第一人者T・S・アーサーに焦点を定め、同時代の作家たちを含めた代表的な作品を対象に分析を続けてきたが、そうした狭義の禁酒小説の分析に加え、ハリエット・ストウの『アンクル・トムの小屋』など同時代の他ジャン

ルの作品を禁酒小説の視点から分析し、それらが同じ精神を共有していること、とりわけ、キリスト教福音主義と感傷主義に共通の基盤を置くものであることを指摘し、同時代の精神史を見直す切り口を発見した。研究成果については個々の活字媒体により発表中であり、上記研究書に寄稿した論考もその一部である。また、研究成果を土台にした講義を勤務先で実践し学生たちの好評をえている。

田口哲也は主にカリフォルニア州における薬物依存を形成する社会構造に関する文献調査を各種の書籍、パンフレット、政府刊行物など約1200点についておおよそ600時間以上行い、また実際の依存患者や医療関係者、地域ボランティア、地方政府関係者など約120人にのぼる聞き取り調査を行った。この調査をもとにして最新の脳神経科学、進化論生物学、現代社会学などの分野の最新の理論を援用し、後期資本主義のエートスが最も如実に現れているとされるロサンゼルス一帯、とりわけウエスト・ハリウッドの社会構造とその社会構造を生み出す人間関係の病理を説明するために、近年とみに発達した薬物病理学の事例研究の方法を参考にして薬物依存を説明する理論モデルの最適化を行った。その結果、薬物依存を形成する最も大きな社会的要因は「個的自我」が独立して存在し、あたかも独我論的宇宙のような、「個」が「類」から切り離され、自由な存在として社会空間を浮遊することが可能となるようなテクノロジーと社会的インフラの跛行的発達にあることが明瞭になった。

この理論構築と事例への応用の成果の一部は論文「現代詩とポピュラーミュージック」（『メディアと文学が表象するアメリカ』、英宝社、2009年）で発表した。ジョン・ベリマンやジャック・スパイサーを想起するまでもなく、かつては現代のパラノイア的病理は現代詩に色濃く投影されていたのだが、現代ではむしろ内面の不安が恐怖に変転するダイナミズムはもっぱらポピュラー・ミュージック中に表出されていることを文化論的に論じたものである。

また、アムステルダム大学での事例研究と依存現場での参与観察の成果を生かし、薬物依存の度合いを測る尺度を試作し、さらに社会階層と都市空間に於ける薬物依存の分布を記述する方法を開発中である。成果は論文で公表するとともに、国内外の学会、研究会において発表している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

①堀 恵子、『セックス アンド ザ シテ

ィ』に見る愛のかたち—ミランダとステイ
ープの場合—』『英米文学の可能性—玉井
暲教授退職記念論文集—』英宝社、査読有、
2010、819-830.

- ② 森岡 裕一、「リグリーの怯え—『アンクル・トムの小屋』における男女の力学』『英米文学の可能性—玉井暲教授退職記念論文集—』英宝社、査読有、2010、641-652.
- ③ 森岡 裕一「ボトルと奴隷—『アンクル・トムの小屋』における支配と依存』『メディアと文学が表象するアメリカ』英宝社、査読有、2009、56-77.
- ④ 田口 哲也、「現代詩とポピュラーミュージック』『メディアと文学が表象するアメリカ』英宝社、査読有、2009、329-351.
- ⑤ 堀 恵子「ギルバート・イムレイとの関係に見るメアリ・ウルストンクラフトの恋愛依存』『「依存」する英米文学—阪大英文学会叢書5—』英宝社、査読有、2008、119-136.
- ⑥ 田口 哲也「大衆文化とマスメディア』『メディア学の現在』世界思想社、査読有、2007、136-156.

〔学会発表〕(計4件)

- ① 田口 哲也、「非都市化の文法」日本比較文化学会全国大会シンポジウム、2009. 6. 13. 久留米大学
- ② 田口 哲也“Japanese Zen Tosses Water on a Century of Fire”, South and Southeast Asian Association for the Study of Culture and Religion, 2009/6/4, Universitas Hindu Indonesia (Denpasar, Bali, Indonesia)
- ③ 森岡 裕一、「メディアとしての禁酒小説」日本アメリカ文学会第46回全国大会シンポジウム、2007. 10. 14. 広島経済大学
- ④ 田口 哲也「メディアを奪い取った詩人」、日本アメリカ文学会第46回全国大会シンポジウム、2007. 10. 14. 広島経済大学

〔図書〕(計1件)

森岡 裕一、堀 恵子 (共編著) 『「依存」する英米文学』英宝社、2008. 238

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀 恵子 (HORI KEIKO)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：50157046

(2) 研究分担者

森岡 裕一 (MORIOKA YUICHI)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：20135635

田口 哲也 (TAGUCHI TETSUYA)

同志社大学・文化情報学部・教授

研究者番号：00145103

沖野 泰子 (OKINO YASUKO)

甲南大学・国際言語文化センター・非常勤講師

研究者番号：10425100

(H20：連携研究者)

(H21：研究に参画せず。)